



Vol.50

なるほどアイヌ文化トーク ソッコ de ソッコ

アイヌ文化にどっぷり浸って生きてきた
本田優子(札幌大学副学長)と
村木美幸(アイヌ民族博物館専務理事)が、
その魅力をソッコ(=お便り)形式で語り合います。



イラスト/安田千夏

鬼ごっこに馬跳び、砂浜に大きなSの字を書いて陣取りなど子供の頃って外を駆けずりまわって遊んだよね。子供たちは遊びを通して社会へ出る準備をするって言われますが、遊ぶことでルールを覚え、計画的な協調性、行動力など、いろいろな力を自然と身に付けるってことだね。

昨年、アイヌ民族博物館のイオル再生伝承者(担い手)育成事業の研修生がワークシヨップで「シノタンロー(遊びましよう)！」と題してアイヌの遊びの紹介をしたの。ウニコシキ(互いに木を立てる)という将棋のようなゲームで、炉の灰に漢字の「田」のように線を描き、両端の線が交わる所に三本ずつ棒を刺して対戦する遊び。ルールは簡単、棒をお互いに一手ずつ前後左右に進め、先に相手の陣地に自分の棒を並べた方が勝ち。棒をどの方向へ動かすのかアイヌ語で言うというルールで、アイヌ語学習にもなる内容。自分達で考えたオリジナルルールをいくつも追加して難易度を上げたり、人を棒の代わりに四人一組で戦う「人間ウニコシキ」など、楽しい時間を過ごしました。

単純なゲームだけに勝つにはさまざまな戦略が必要。持久戦でもありますが、心理戦であり頭脳戦でもある「読みの力」がカギとなるゲーム。子供から大人まで楽しめますよ。



人間ウニコシキ? 楽しそう! カリフペカも伝統的なアイヌの遊びとしてよく知られているよね。カリフは輪、ペカは受け止めるって意味。投げられた輪を、又になった木で刺して受けるんだけど、何人もで競い合って勝負することもあるの。動いているものを刺す遊びは他にもいろいろあるんだけど、それらは実は狩猟の訓練でもあったんだって。この他にも男の子たちは、小さい頃からシノツポク(遊びの小弓)と呼ばれる子供用の弓矢を持たされ、狩人としての感覚を鍛えたとのこと。

一方、江戸時代の絵には、砂の上に寝転んでアイヌ文様を描いている女の子の姿が見えます。アイヌ社会では、裁縫が上手で美しい刺繍を施せる女性が、とりわけ称賛されたの。だから、女の子たちは暇さえあれば文様を描いたり、布さを縫い合わせて運針の練習をしていたみたい。そつそつ、女の子が自分の遊び道具として人形を作るのは世界中で見られることだけど、アイヌ社会では、縫った人形をそのまま置いておくと、夜のうちに魔が乗り移るとして忌み嫌われ、必ず糸を抜いて人形の姿を解いたとのこと。で、何度も何度も縫い直しているうちに、嫌でも上手になったんですって。

いっぱい遊んで初めて一人前のオトナになれる。昔も今もそうだよ。

